

月刊

地域保健



●特集

私の「保健師必要論」

PART
2

●FACE 2010

銚子市地域包括支援センター長

安藤智子さん

●OPINION! 保健師さんへ

社団法人 国民健康保険中央会理事

田中一哉さん





保健師の個別支援はケアマネジメント！

「介護予防は楽しい」と語るパワフルな保健師が描く地域づくりとは？

銚子市
地域包括支援
センター長

安藤智子さん

取材・文 編集部

介護予防ではケアプラン作成に忙殺され、地域包括支援センターでの役割に悩んだ保健師も多いことだろう。そんな中で「保健師の個別支援とはケアマネジメント」と主張するのは銚子市の安藤智子さんだ。制度創設期には厚生労働省の研究班などに参加、現在は銚子市地域包括支援センター長として地域の介護予防事業を推進しながら、千葉県の介護支援専門員指導者も務めている。安藤さんはどんな人物なのでしょうか？

プロフィールを見ると、岐阜県高山市の出身で、1981年3月に千葉大学看護学部卒業である。

「千葉大に入ったときは学部の3期生で、当時は『看護学を確立しよう』と意欲に燃えた先生たちが大勢いました。保健師を目指すようになったのは3年生のときで、読んだ川村佐和子さんの『難病に取り組む女性たち』（勁草）

書房）という本がきっかけです。病気の人の支援システムをつくる話で、地域住民のケアにたいへん魅力を感じました。そのころは在宅看護が注目を浴びていたこともあり、卒業後は保健師か訪問看護師が迷ったのですが、当時教授をされていた平山朝子先生（現・岐阜県立看護大学学長）から『公衆衛生看護をやるなら保健師』というアドバイスも受け、保健師の道に進むと決めました。一方で看護の援助過程にも関心があり、卒業論文では母子保健指導の援助過程をプロセスレコードに起こすことをテーマに選びました



「病院の看護実習のときは『この人たちが家に帰ったらどうなるんだろう』ということばかり気になっていました」。根っからの保健師だ

の安藤さんの考え方を解説するキーワードである。

就職は千葉市の健康管理課に決まりた。先輩保健師は60人。ロールモデルになるような人が大勢おり、自主的な勉強会が活発に行われるなど保健師としての意欲も高い集団だった。当時は

事業に追われるようなこともなく、月に18日は訪問に出ることができた。育児サークルや高齢者問題を考えるサークルも立ち上げた。安藤さんの保健師としての基盤はこの時期に築かれたといつてい。そんな恵まれた環境ではあつたが、自分の目指す地区活動を具現化する方法が分からず、「自治体に働く保健師のつどい」に参加するなど模索が続いていたという。

ちなみに、千葉市時代には北山三津子さん（現・岐阜県立看護大学看護学部教授）、1年後輩には宮崎美砂子さん（現・千葉大学看護学部教授）がいた。当時の千葉市役所には千葉大看護学部出身の俊英たちが揃っていたのである。

てんでんしのぎ

29歳のとき、7年間勤めた千葉市から銚子市に転職した。理由はご主人の

ことになつたのである。

「銚子市役所に来てみると先輩保健師は6人しかいませんでした。しかも保健師のトップは私と同じ保健師歴（8

市の名は酒器の「銚子」から

銚子は日本有数の漁獲量を誇る漁業のまちであり、醤油の生産地としても名高い。人口は約7万人（2010年2月1日現在）。関東平野の東のはざれに位置するが、特急に乗れば東京から約2時間の距離にある。

市の名前は酒器の「銚子」に由来するという。利根川河口付近の地形は、注ぎ口が狭く中が広い銚子の形状に似ていることから、昔その一帯は「銚子口」と呼ばれ、やがてそれが地名になったという話だ。料理店で徳利に入ったお酒を注文するのに「お銚子一本！」と言う。しかし、もともとは銚子と徳利は違うものを指していた。かつては三々九度などの儀式に使う細い注ぎ口を持つ酒器のことを銚子と呼んだのである。

わが国屈指の漁港、銚子港
千葉県
利根川
銚子市

年目）で、とても若い集団だつたんですね。半面、組織が大きな千葉市と違い、銚子市は自分の頭で市の保健師活動を考えられる規模でした。初めて市の保健活動を自由に考えることができたの

特集

私の 「保健師必要論」

PART

2

P16 住民の幸せのため 住民とともに 仲間とともに
◎伊勢崎市健康推進部 松本彰子

P22 オーダーメードを積み重ね事業化へ
◎さいたま市保健所 渡邊好恵

P28 なければ生きていけない「空気」に保健師がなるために
◎堺市保健福祉局健康部 梶山直美

P33 保健師がなぜ地域に必要か?
◎五泉市 鈴木信子

P38 住民同士が楽しめる、まちづくりのプロセスを担う保健師
◎広島市東区役所厚生部 山本洋子

P43 地域の安心を守る総合調整機能の担い手として
◎島根県浜田保健所 永江尚美

P48 保健師は公平公正に働く意味と意識の体現者
◎山形市健康福祉部 田川由美子

P52 地域の健康の継続的・包括的な守り手として
◎神戸市東灘区役所保健福祉部 藤山明美

昨年の9月号では、
日本看護協会会長や教職・研究職の先生方に
「私の『保健師必要論』」を展開していただき、大きな反響がありました。
今回は現場のベテラン保健師さんに、同じテーマでご執筆いただきました。
保健師活動に確たる手応えをつかめない新人の方も、
日々事務作業に追われ「あれ？ 保健師って何をするんだっけ？」と
方角を見失いつつある方も、
大先輩の経験の結晶である、数々の言葉の中から活動のヒントを
探してみてください。



paper craft : Hiro

大学院で得た専門知識と経験を地域に生かす

さいとう のぞむ
齋藤希望さん ●新居浜市福祉部保健センター



◆新居浜市の観光地といえばマインツビア別子。旧別子銅山を利用した産業遺産の里だ



取材・文・写真 西内義雄 (医療・保健ジャーナリスト)

保健師の資格を取るには二つの流れがある。一つは看護学校や短大から保健師学校・看護大学に進学(編入)という流れだろう。看護師の資格を取得後、さらに保健師を目指して進学する方法だ。

ただ、大学での保健師教育が今までよいのかという疑問符がつく。看護師の資格はともかく、保健師はおまけ的な存在になつていなかろうか? 実習にしても、現場をただ見せているだけで、行政保健師の専門性や仕事内容を理解しないまま就職。理想と現実増えていることがよく分かる。

18人が該当し、そのうち看護系大学の4年間だけで資格を取つたのは14人。大卒保健師の割合が昔に比べてかなり増えていることがよく分かる。

のギヤップに戸惑っているひよこさんの話もよく聞く。

一方、ベテランに目を移すと、現場でキャリアを積んだ後に大学院の資格を取り直す人。さらに大学院に進む人も増えているようだ。ひよこさんもベテランも、自分にないものを必死に探しているのではないかと思わずにはならない。

彼が大学院卒の新人だからだ。

齋藤さんは県内の上居町(現・四国中央市)に生まれ、小学校高学年くらいから小児科医になる夢を持つていた。

「子どものころからかぜやけがなどでよつちゅう病院に行つてました。それで色々とよくしてもらつたのが理由でしようか……。家も兼業農家ですし、コレという決定打があつたわけではありません」

何となくといいつつも、医師になる気持ちは高校3年の志望校を決める段階まで持ち続けていた。

「進学先として考えていたのは筑波大学でした。実は筑波の研究機関に勤めている親戚がいまして、昔から筑波はたくさんある研究機関があるすごいところなんだというイメージを持っていた」

「ガツガツと勉強して医学部を必死にを目指すより、理学部に進み数学の教師になるのもいいかなと……」

のんびりと考えるタイプなのだろう、あまり緊迫感のない話である。そ

してセンター試験も終わり、最終的な目標を決めようといふつかの大学から置きをしてから紹介したかというと、さて、前置きが長くなつてしまいました。今回のひよこさんは、こうした話題に関連するであろう男性保健師のお話を。名前は齋藤希望(のぞむ)さん25歳。愛媛県新居浜市に昨年新規採用され、保健センターで主に成人保健を担当している。男性は私が担当するようになり3人目なので珍しいことではない。ではなぜ冒頭のような前

がいいと思っていました

資料を取り寄せたとき、筑波大学に看